自治労 北海道

全日本自治団体労働組合
北海道本部
〒060-0806 札幌市北区
北6西7北海道自治労会館
電 話 011-747-3211
FAX 011-700-2053
編集・発行 谷川 広美

自治労第82回定期大会

「変革と挑戦」の最先頭に

自治労は、8月26日、27日の両日、徳島市・アスティとくしまで第82回定期大会を開き、1年間の運動総括と、当面の闘争方針案、持続可能な日本社会のグランドデザイン構想（討議案）、など9つの議案が提案されすべて可決した。大会には全国から代議員・傍聴者など3千人（北海道125人）が参加した。

大会冒頭、徳永委員長は、7月の参議院選挙について、自治労組織内の『えさきたかし』が初当選できたことに、「長期間にわたり運動を支えていただいた」と、全国の組合員のみなさんに感謝とお礼の言葉を述べた。

昨年の大会2日後、歴史的な政権交代があり、状況はめまぐるしく転換した。徳永委員長は、この1年を振り返り、『前例は新しくつくるもの』だが、手探りでも、政権与党を支持する立場で政策づくりや、その実現にむけた取り組みを全力で進めてきた」と強調した。さらに、この間訴えてきた『変革と挑戦』を確かなものへ」をキーワードにした自治労運動の前進に向け、公務員制度改革とそれに関連する消防職員の団結権、地域主権などの政策実現、政治との関係などについて問題提起した。

非正規職員の処遇改善へ

徳永委員長は、今回最も強調したい点として、『官製ワーキングプア』とされる自治体非正規職員の処遇改善、それを通じた公共サービスの向上と、運動の方向性について問題提起した。「非正規職員が搾取されている自治体の現実を改善させるための『賃金シェア』で、全体の処遇改善と安定雇用を図る方策を採用すべきだ」、と考えを示した。そのためには、「現実的な対応は避けて通れない。総原資のあり方について議論を開始し、大胆に運動展開する必要がある」と呼びかけた。さらに、「人間を対立させようとする、よこしまな意図を拒否し、自治労こそが、『変革と挑戦』の最先頭に立つ、という意思を固め合おう」と訴えた。

脱原発への政策転換めざして

今回は、発言の事前通告制を導入し、全国から33件のエントリーがあった。北海道本部は、大出企画総務部長が、本部方針を支持する立場で、「給与定率カットについて国と地方状況は大きく異なっている。総務省対策を強力に進めるべき」と、人勧期闘争など、大きく5点について発言した。（詳細は、道本部HPで！）

最後に、大会宣言で、「自由・公正・連帯」の社会の創造と「労働を中心とした福祉型社会」をめざすため、統一自治体選挙の必勝にむけた取り組みと、「脱原発への政策転換を求める」決議の採択を行った。

本大会は、2010－2011年の運動方針における中間年大会として位置づけられている＝8月26日、徳島市・アスティとくしま

えさき参議in北海道

地域主権には 3つの『げん』

第22回参議院選挙で、自治労の総力をあげてたたかった、組織内の、えさきたかしさん（民主党）が、8月29日、当選後、初めて来道し、9月2日まで全道の各職場をまわり、組合員や首長にあいさつをした。

空知管内には、はじめに夕張市を訪ね、市の現状について説明を受けた。その後、空知管内の単組をまわった。

えさきさんは、「地域主権は、3つの『げん』が必要だ。『権限』『財源』『人間』。しかし、最後の『人間』が大事にされていない。公務員に対する、さまざまな削減は、本当の意味での地方自治はなり立たない」と訴えた。

剣淵町役場であいさつする、えさき参議

空知地方本部都市連絡会議であいさつする、えさき参議

初党院

7月30日、議員バッジを胸に初党院し、「あらためて身が引き締まる思いです。皆さんの支援に感謝します」と話した。

朔風

大儀なき「イラク戦闘」の終結宣言。間違いだらけの判断がもたらしたものは数十万人の死、環境破壊…それに追随して援助した日本の罪は大きい。終結しても撤退は来年。それまでにどれだけの犠牲が残るのか。戦争をなくそう。

「暑い、暑い！」と言いながら季節はちゃんと秋。朝夕は涼しく、空の高さや雲の形も変わってきた。猛暑だった今年の紅葉はどんなだろう。脚光浴びる民主党代表選の結果はもうすぐ。選挙結果はどうあれ日本の高揚を見てみたい。

衆院5区補欠選

「若さと責任」しっかり前進

中前 茂之（なかまえ しげゆき）

衆議院北海道第5区選挙区（札幌市厚別区、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村）の議員辞職にともない、10月12日告示、10月24日投票日の日程で補欠選挙が行われる。

道本部は、8月23日の第25回執行委員会と、24日、第6回拡大闘争委員会で中前茂之（なかまえ しげゆき）さんを38歳の推薦を決定した。中前さんの勝利にむけて全力で支援する。

プロフィール
1972年 札幌市に生まれる
1990年 北海道札幌南高等学校卒業
1995年 北海道大学工学部土木工学科卒業
同 年 建設省（現国土交通省）入省
1997年 都市局都市計画課まちづくり事業推進室計画調整係長
2008年 横浜市道路局横浜環状道路担当課長
2010年 国土交通省北海道開発局千歳道路事務所長

10月12日告示・24日投票

JICHIRO スケジュール

2010年9月

13日(月) 第4回自治労道議団会議（札幌市）
14日(火) 道本部第27回執行委員会（札幌市）
15日(水) 道本部第9回組織強化委員会（札幌市）
男女がともに担う推進委員会（札幌市）
18日(土) 公衆衛生病院集会・衛生医療評幹事会（札幌市）
第25回女性部定期大会（～19日、札幌市）
2010年度「労働安全衛生講座」（札幌市）
19日(日) 道本部衛生医療評定期総会（札幌市）

道本部ホームページ

自治労北海道 検索

組合員専用ページは ユーザー名：hokkaido パスワード：jichi2009

本号の紙面

2 面 自治労北海道学校「アクティブコース」
3 面 第32回全道自治体職員等女子バレーボール大会
4 面 第49回平友祭、職場だより、農ネットワークほか

北海道の最低賃金改定

678円（＋13円）➡691円

※2010年10月15日発効（予定）

視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用出来ない人のために、営利を目的とする場合を除き「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等の製作をすることを認めます。その際は著作権者、または、出版社まで御連絡ください。

どうする「労働組合」がなくなったら

自治労北海道学校2010アクティブコース

権利に『ただ乗り』はダメ！

8月20日から22日までの3日間、自治労会館で活動家の育成を目的とする自治労北海道学校「アクティブコース」が開かれ、受講生24人が参加した。

［1日目］

開講に先立ち、学校事務局長である、川本書記長が自治労北海道学校の目的と歴史について、「アクティブコースは、従前、「活動家養成コース」として開催していたが昨年から名称変更して開催し2回目になる。これまでに、多くの学校修了生を輩出し自治労運動を支えてきた。しっかり学習し自治労運動を担ってほしい」とあいさつした。

はじめは緊張気味の参加者も、アイスブレイクで名刺交換し自己紹介をするうちに最初の緊張が一気にほぐれた。

第1講座「労働組合がなくなったらどうなる」

少々過激なテーマではじまった。講師はレーベン企画・プロデューサー南雲聡樹さん。パワーあふれる講演に参加者は真剣。南雲さんは8年間、東京の江戸川区職労の書記長を経験し、現在は民間で働いている。自身が携わってきた自治労での取り組みと、14年間出来高払いで働き、感じたことを熱っぽく語った。さらに、「組合の役員・専従は大変だが、その中で一つくらいは涙を流して喜べることをつくることが大事。相手を批判するのは簡単だが、何かが起こったときどう対処するかだ。ピンチとチャンスは裏腹である」と強調した。また、新規採用者に組合加入のオルグで「今まで先輩たちが交渉で勝ち取ってきた権利を、組合に入らずに『ただ乗り』は

アイスブレイクで、全員と名刺交換、緊張をほぐす受講生＝8月20日、自治労会館

第1講座で夏季休暇取得をめざしたポスターのキャッチコピーをつくり発表する参加者

音楽で演出しながら講演する南雲さん

だめ！」と話したことなどを紹介した。

グループワークは、4つの班で、夏期休暇取得をめざしたポスターのキャッチコピーづくりや、「労働組合がなくなったらどうなる」を考え、職場で3分間オルグするイメージで発表した。

［2日目］

2日目は、3つの講座が行われた。

講座2「労働組合と自治労の社会的役割」

元中央本部委員長の大原義行さんが、労働組合のあり方や社会的役割について講演した。「8割の職場に労働組合がなく、多くの労働者が長時間労働や無権利状態で働いている。また正規職員中心の運動なのが、日本の労働組合の弱点だ」と指摘した。また、「自治労の社会的役割として、労働者の労働条件の維持改善、向上はもちろん、公共サービスを担う人達の組織化が必要。護憲、平和、地方自治、さらにボランティアなど、社会貢献など幅広く考えることが必要だ」と話した。

社会貢献も考えようと話す大原さん

給与決定のあり方などを話す横山さん

「教室紙を発行して組合員に情報を伝えよう」と話す谷川さんと参加者

講座3「これからの自治労賃金闘争」

自治労本部・横山龍寛労働条件局長が、今年の人勧の説明や、2012年の人勧廃止による給与決定のあり方、今後の65歳定年延長について講演した。

講座4「教宣活動と機関紙づくり」

道本部・谷川広美教育情宣部長が、道本部のホームページの取り組みや、機関紙の作り方を説明した。機関紙は組合費の領収書、組合員に情報を伝えることはあたりまえ。必ず発行しよう」と話した。実践として、機関紙づくりのあと、グループ発表を行い最優秀チームに賞品が渡された。

職場地域で生かそう

公開講座修了後、山上潔学校長から受講者に修了証書が手渡され、「今後も自治労北海道学校で活動家育成に努めていく。皆さんも学習したことを、職場、地域で生かし担ってほしい。そのことが全体の運動を押し上げることになり、皆さんにつづく活動家が育っていくことになる」とエールを送った。

来年も参加したい

参加者から、「年齢層を超えて知恵を出し合い、ひとつのことを成し遂げることの大切さを学んだ」「組合活動には学習・交流・実践が大切だ。今後に生かしたい」「参加して良かった。来年も参加したい」「ポジティブに組合員と語り、追求することの必要性を学んだ」「教宣づくりに自信がついた」など感想が寄せられた。

公開講座［3日目］

公開講座には、受講生24人と一般参加者として43人（うち女性13人）合わせて67人が参加した。

【講座1】「男女共同参画と意識改革」
多様化の時代「性差ではなく個人差」

平岡さんは、「現代は、多様化がすすみ〝生きがいの時代〟から〝生き方の時代〟にコンセプトが変わった。ワークライフバランス、女性の管理職登用についても当たり前になりつつある」とし、「今は多様化した考えを受け入れる時代。性差ではなく個人差」だと述べ、「人を育成するには、ともに育つことが必要。人間関係は最終的にハートで動く。思いやりをもち、しっかり話し聞き、アドバイスしてサポートすることが大事。それが男女共同参画をすすめることになる」と強調した。最後に「組織は、みんなで関り、目標にしたがって一人ひとりが全力をあげることが必要だ」と呼びかけた。

平岡祥孝札幌大谷大学短期大学部教授

【講座2】「政権交代　この一年とこれから」
苦しくても「本当のことを伝えたい」

峰崎さんは、「政権交代は、国民が官僚主導・利権政治などにあきれ、新たなマニフェストを掲げた民主党に期待を寄せた結果である」としながらも、そのマニフェストを行うにで予算を策定するのが非常に困難だったことを述べた。「マニフェストは財源の裏打ちがないとマニフェストとは言わない」と指摘した。さらに、今後は「社会保障をしっかり拡充しながらも、財政再建議論を早急にしなければならない」と強調。政府への信頼がないと、国民の生活が第一の政策を実行していけない。みなさんとともに考えあいたい」と話した。また、政権運営について「一番大事なことは人事で、それがうまくいったときは長く続く」と、これまでの歴史を振り返った。最後に、「政治家が本物かどうかは、今必要なことは何なのか、解決策を持っていないと説得力がない。苦しいけれど本当のことを多くの仲間に伝えたい」と話した。

峰崎直樹財務副大臣

第32回

全道自治体職員等女子バレーボール大会

札幌市職連が全国へ

9月4日、5日の両日、旭川市・忠和公園体育館、鷹栖町総合体育館で第32回全道自治体職員等女子バレーボール大会が開かれ、予選リーグ12チームで勝ち抜いた9チームが決勝トーナメントに進んだ。

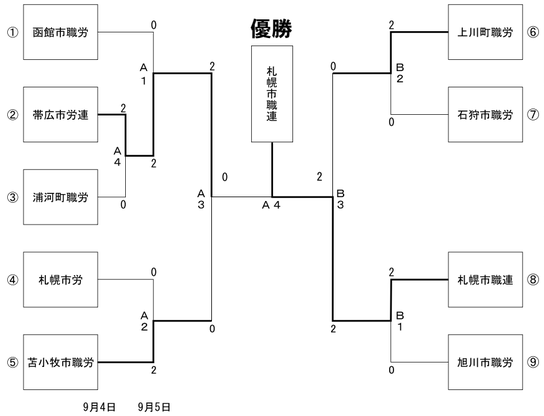
強豪チームをおさえ、札幌市職連が優勝し、帯広市労連チームが準優勝となった。

来年9月に、京都で開催される予定の全国優勝大会には、本年の優勝チームである札幌市職連チームと、来年の優勝チームが参加することになる。

札幌市職連に優勝旗を渡す山上委員長

第32回　全道自治体職員等女子バレーボール選挙権全道優勝大会トーナメント

忠和公園体育館



札幌市職連が優勝

〔決勝・試合結果〕

決勝戦は予選リーグの初戦で対戦した札幌市職連と帯広市労連の対戦となった。

第1セットは、帯広・柚原選手のサーブで始まった。長いラリーから札幌・櫻庭選手の速攻が決まり、そこから札幌市職連の怒濤の攻撃が始まった。センターからの速攻攻撃、ブロックなどで連続8得点を取り主導権を握る。

帯広市労連も鳴海選手、本郷選手のスパイクで一時は5点差まで縮めるが、最後は札幌・角田選手のスパイクがブロックアウトを誘い第1セットは、21対15で札幌市職連が先取した。

第2セット、序盤は互いに譲らず、9対8から札幌・角田選手、阿南選手のスパイク、櫻庭選手のサービスエースなど6連続得点で突き放し、最後は阿南選手のスパイクが決まり21対13。セットカウント2対0で札幌市職連6度目の優勝を果たした。

優勝した札幌市職連チーム＝9月5日、忠和公園体育館

決勝戦

帯広市労連　0　（15－21）（13－21）　2　札幌市職連

※出場した12チームの試合結果は、道本部ホームページ「単組・組合員専用」で見ることができます。

札幌市職連（手前）と帯広市労連の決勝戦

準優勝した帯広市労連チーム＝9月5日

選手みんなをほめてあげたい

個人賞

勝利監督賞

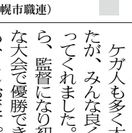
川口　常哉さん（札幌市職連）

5年前に全国大会で初優勝。3年前に連続優勝。昨年3連覇をめざしたが、惜しくも準優勝。

現在、結婚、出産と選手が抜けて、選手は9人。ケガ人も多く大変だったが、みんな良くがんばってくれました。今年から、監督になり初の大きな大会で優勝できて感動もひとしおです。選手みんなをほめてあげたい。ありがとうございました。

来年の全国大会は優勝をめざして頑張ります。

最優秀選手賞


角田　麻美さん（札幌市職連）

この日のために、がんばってきた成果があらわれてとてもうれしい。来年の全国大会にむけ、より一層力をつけて頑張ります。

サーブ賞

櫻庭　郁美さん（札幌市職連）

今回の大会に出られるとは思っていませんでした。バレーができる環境に感謝しています。全国大会でも必ずがんばります。

レシーブ賞

鈴木　恵さん　帯広市労連

2日間の6試合もゲームができて楽しませてもらえました。札幌市職連チームには試合では負けましたが、年齢では負けていなかったです。（笑）

アタック賞

阿南　美穂さん（札幌市職連）

選手のみんながつないでくれたボールを、打ちきることができてよかったです。支えてくれた皆さんに感謝しています。

敢闘賞

参納　可奈さん　帯広市労連

準優勝は残念でしたが、チーム全員で精一杯やった結果なので満足しています。また来年の大会で結果を残せるように頑張りたいです。

全国でも優勝めざす

安心への　パスポート
「総合共済基本型」は、組合員全員で支える慶弔見舞金制度。仲間の一大事をみんなで助け合う。そんな気持ちをカタチにしました。
自治労共済
●詳しくはパンフレットをお読みの上、所属する組合までお問い合わせ・お申し込みください。
http://www.jichirou-kyosai.jp

第49回 平友祭

「平和」が奪われる…その前に考えよう

8月28日、29日の両日、夕張市ファミリースクールひまわりで、第49回北海道青年学生平和友好祭典が開らかれ、3産別1団体・67人が参加した。

友帯、連帯、平和・友情の火を灯し、キャンプファイヤーを囲んだ＝8月28日、夕張市

平友祭運動へ向けては、4月7日に第1回実行委員会を立ち上げ、当日までに3回の実行委員会で討論を重ねてきた。その中で「普天間の問題は正直、よくわからない」「そもそも、なぜ基地が必要なのか、その背景の学習が必要では」などの声が出された。その上で「経済の問題と職場・平和の課題を一体で考える必要がある」と確認した。

基調講演は、自治労森町職労執行委員長の宮崎渉さんが、「経済から職場・平和問題を考える」と題し、オキナワ普天間基地の問題、企業の海外進出と軍事政策の関係、森町での非正規労働者の組織拡大について話した。

分散会では、「超勤をしても、上司が超勤扱いにしてくれないまま、サービス超勤が続いている」「経済と平和につながりがあることを改めて考えた」などの声が出された。

1日目の終わりには、エルベの誓いを行い、全員で交流し、平和を考え語り合った。

2日目は、スポーツ交流で、班ごとに綱引きや、長縄飛びなどを一致団結して行った。

最後に、牧野実行委員長が「誰もが否定しない平和な社会が奪われようとしている。職場で安心して働き続けるための権利や、人の尊厳が奪われようとしていることを確認した。さらなる学習と討論で自分たちの運動に自信と展望を持ち、一つひとつの職場から『おかしなことはおかしい』と言える力を持ち、仲間づくりをしていこう」とまとめた。

エルベの誓いとは？

エルベの誓い（えるべのちかい）は、第二次世界大戦末期の1945年4月25日に、ナチス・ドイツのファシズム政策に対し、東進を続ける連合国のアメリカ軍と、西進を続けるソ連赤軍がドイツ東部を流れるエルベ川の沿岸、ザクセン州トルガウで初めて出会い、平和を誓い合った出来事。

交流し、語り合った

職場だより

町民に愛される町職労めざして

【渡島地方本部発】毎年恒例の『しかべ　海と温泉のまつり』は、今年で29回目を迎えました。

だしのきいた、おいしい「すり身汁」1300食は「あっ」と、いう間になくなった

8月21日に行われたこのイベントでは、地域貢献活動の一環で、鹿部町職労から30人の組合員が参加しました。本部や、カッターボートレース、子ども広場、すり身汁無料サービス、岸壁警備などを担っています。

朝からの「ガスかぶり」（霧がかかること）も、お昼前にはすっかり晴れて祭り日和となり、カッターボートレースからスタートしました。

カッターボートとは、もともと海で遭難した人を救助するためのボートです。乗組員8人が木製のオールを使い、息を合わせて漕ぎます。声かけ、舵取りの2人が加わり、船は、片道90mのコースを折り返してタイムを競います。途中、人に見立てた救命胴衣を救い上げることが義務付けられています。町職チームも出走し、好スタートを切りましたが、折り返した後、舵にブイを巻き込んで失速するという残念なトラブルに見舞われました。

すり身汁無料サービスでは、町内の女性ボランティア団体と協力して、地場産の昆布を使用した、鯛とタラのすり身汁1300食を用意しましたが、1時間足らずで終了する人気でした。

岸壁警備班は、主に花火大会開始前の築港周辺で、お客さまにケガがないように立入禁止区域の警備に当たっています。その甲斐あって今年もケガ人を出すことなく、盛大な花火を最後まで楽しむことができました。

これからも、地域に根ざし、町民に愛される鹿部町職労をめざして努力します。（鹿部町職員組合教宣部長　泉　史郎）

「農」ネットワーク

みんなで守り育てよう『農業・農村』

8月22～23日、伊達市北湯沢で、北海道「農」ネットワーク第13回定期総会および研修会が開かれ、全道各地から農業生産者や自治体職員などおよそ80人が参加した。

冒頭、長谷川豊代表は、「年1回の研修会だが、農業に関わる自治体職員や農業生産者が集まり、情報交換や交流をはかってきた。今後も継続し運営していきたい」とあいさつした。引き続き講演Ⅰの講師として、「これからの農業・農村はみんなで守り育てる～安全・安心をめざした農業人材育成を提案する（その後の風のがっこう）～」と題し講演に移った。

その後、長谷川代表の指導のもとで農業を営んでいる平賀農（ひらがつとむ）さんによる実体験や、農業への新規参入者への関わりなどについて報告した。講演Ⅱでは、胆振農業改良普及センター・菊地所長が「新規参入に関する事業」について講演した。講演後は、定期総会を行い、2010年度の運動方針と予算について確認した。

農業生産法人㈱風のがっこう農場の説明をする平賀さん（手前右）＝農場のハウス前

ヒロちゃんの国会だより ⑤⑨

仲野博子

「国民生活が第一」の予算に

8月は、与党になって初めての概算要求の時期でした。

例年であれば地元に腰を落ち着けて活動に専念するところですが、今年は、私が座長を務める農林水産部門会議酪農畜産ワーキングチームで、来年度概算要求に向けた内容を審議するために、東京で過ごす日程が多くなりました。

民主党は「国民の生活が第一」と考え、国民生活が向上するような予算編成に取り組んで参ります。

財政状況は今年度同様厳しい状況ですが、皆さまに政権交代のメリットが実感できるような予算編成にしたいと考えております。

政権交代を実現してから一年が経過いたしました。自治労北海道の皆さまとともに、北海道、そして日本のために尽力して参ります。

（8月31日　東京にて）

コンサドーレ チケットプレゼント

コンサドーレチケット2枚を1人にプレゼント。

各試合共通（見たい試合を自分で選べます）SAゾーン自由席。

締め切りは9月22日㈬午後4時、電話で受付（011―747―3211）単組名、名前、連絡先を申告）落選した人には連絡しない。

忙中余話

私事ですが、8月14日に子どもが生まれ、家族が増えました。初めて、おっかなびっくり抱いた時の、「赤ちゃんてこんなに温かいんだ」と、ドキドキしたうれしさと感覚が残っています。生まれたあと、出生届などの手続きを行い、だっこ、お風呂入れ、おむつ交換など、一つずつ失敗しながら経験しています。しかし、この子が産まれてきてくれたから経験できることです。これからも色んなことを一緒に経験して、成長していくのだろうと思っています。

今までは、まちで、小さい子が歩いていても特に意識をしなかったのですが、子どもが生まれてからは、ヨチヨチ歩いている子どもを見ると、「つまずかないだろうか」とか、「歩いている人にぶつからないかな」、と心配するようになってしまいました。生まれるまで多くの困難があり、職場には迷惑をかけましたが支えていただきました。妻への感謝と先輩からの子育アドバイスを忘れず、新米パパはがんばります。（鈴木　知幸）